

### Ⅲ 意識調査の研究

#### 1 調査のねらいと概要

##### (1) 調査の目的

理論では、開発的な指導援助に必要な要点を「健康」「安全」「所属と愛情」「自己理解」「自尊」「将来への向上」の6つにおさえた。意識調査では、今後の研究において、それぞれの要点ごとに具体的な指導援助を明らかにしていくための基礎資料を得ることを目的とした。

各要点ごとに、指導援助の方向性を考察するためのねらいを以下のように設定し、意識調査の内容と結果の考察に関連を持たせた。

《健康》 自己実現のもっとも基礎的なものとしてとらえる。意識調査から、児童生徒が自ら健康に留意している現状とその関心の実態を明らかにする。

《安全》 生活全般において安全が保障されていることが自己をみつめる前提になることから、児童生徒の「不安」の実態を「いじめ」を中心に明らかにする。

《所属と愛情》 集団からの受容、認めなどから自己存在感を持つことになる。意識調査から、「集団からの認め」と「自己から他者への働きかけ」の実態を明らかにする。

《自己理解》 上記の三つの要件が満たされ、「他者からの認め」が十分になされたときに「自己を見つめること」が深まる。

児童生徒の自己理解の現状を「長所の理解」「学習方法の理解への意欲」という面から実態を明らかにする。

《自尊》 教師からの認めや賞賛が根底となり、「自分への自信と誇り」を持つようになる。「教師からの認め・賞賛」と「他者への働き掛け」等の実態を明らかにする。

《将来への向上》 児童生徒が、以上の要件を根底に、将来への見通しを持ったとき、自己実現への意欲になる。児童生徒の「将来への見通しと努力」の実態を明らかにする。

##### (2) 調査の対象

ねらいに基づき、「児童生徒」とその「保護者」および「学級担任経験教師」に意識調査を実施した。学校規模、地域等に偏りがないように調査協力校を選定し、図1の有効データ数を得た。

なお、教師については、必要データ数を確保するため、県教育センターの各種講座研修者の協力も得た。

図1

調査対象別有効データ数一覧

		(人)		
		児童生徒	保護者	教師
小学校	5年	458	511	256
	6年	605	499	
小計		1063	1010	
中学校	1年	356	339	335
	2年	380	374	
	3年	343	324	
小計		1079	1037	
高校	1年	538	253	210
	2年	220	256	
	3年	171	210	
小計		929	719	
合計		3071	2766	801

  

教師年齢別人数割合(%)			
	小	中	高
20代	25	51	35
30代	46	34	41
40代	18	6	12
50代	11	9	11

##### (3) 調査の形態

○ 各対象ごとにねらいに即した内容を検討し、児童生徒用48問、教師用46問、保護者用26問に精選した。

○ 各対象とも、一部記入内容を除いて、3～5つの選択肢方式とした。児童生徒用の48問のうち28問は、「現在の自分の姿」と「今後めざしたい自分の姿」の二つの選択肢群を設定した。

図2は児童用意識調査「自分を見つめて」の抜粋である。

図2

#### 自分を見つめて(抜粋)

- 9 いたずらやいじめられるなどなく、安心して学校生活を送っていますか。  
 現在 大変安心して=安心している =ときどき不安になる=毎日不安である  
 今後 いつも安心して =なるべく安心して=あまり気にしない =関心がない  
 いたい いたい
- 19 友人から悪いことに誘われても、きちんと断わることができますか。  
 現在 できる =場合によって=あまりできない =できない  
 今後 ぜひそうしたい = そうしたい =あまりそうしたいと=関心がない  
 思わない
- 28 目標とする人、または尊敬する人を決めて、その人のようになろうと努力していますか。  
 現在 努力している =場合によって=あまりしていない =目標の人はない  
 今後 ぜひそうしたい = そうしたい =あまりそうしたいと=関心がない  
 思わない